

平成26年度 第6回 家庭教育講座「子どもだてマナビィ」

大人のための思春期講座

～上手にコミュニケーションをとるヒント～



- 日 時 平成27年2月8日(土)10時00分～12時00分
- 場 所 吉敷地域交流センター
- 講 師 山口県立大学社会福祉学部 准教授 大石 由起子 氏
- 受講生 大人31名 託児3名

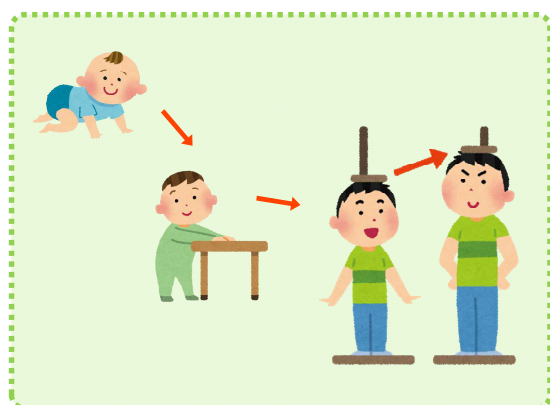


保護者や家庭教育関係者を対象にした「大人のための思春期講座」を開催しました。現代の子どもたちの思春期にはどのような特徴があるのか、具体的な例をもとにお話いただきました。

親として、大人として、思春期の子どもたちに「何ができるのか」、「どのように付き合っていけばいいのか」などのヒントを教えていただき、難しい年頃の子どもの関わり方について、深く考える機会になりました。



○ 思春期…性に目覚める時期、自己意識、依存と自立



子どもが大人になる過程で、乳幼児期に「基本的信頼感」を、児童期に「勤勉性」を獲得します。思春期の今だけを見るのではなく、乳幼児期、児童期をどう過ごしてきたかを考える必要もあります。

“春”は性を意味する漢字でもあり、思春期とは性に目覚める時期です。子どもたちは、自分自身の身体の変化（第二性徴）に対し、喜び・戸惑い・嫌悪感などを感ずますが、感じ方には個人差があります。異性への興味についても、身体は成熟していても社会的には未熟なため、とても不安定だと言えます。

小学生の高学年から中学生頃に、第二次反抗期がやってきます。親への反抗は、自立したい気持ちの表れです。また、自己意識が強くなり、周りからどう思われているかにとても敏感になります。それゆえ、いじめに対して大きな打撃を受けてしまうこともあります。

大人との縦の関係よりも、仲間との横の関係を重視するようになるため、大人の介入をととても嫌がります。子どもたちは困っていても、「大人に訴える行為」を「ちくる」と呼び、よしとしません。大人に頼らず、自分で解決したいという欲求が強くなるからです。しかし、子ども同士で解決できることはよいのですが、大人の介入が必要なケースは少なくありません。

★ 子どもたちに伝えましょう！

大人の社会でも、不当で理不尽な行為に対抗するためには、「警察に通報する」、「裁判を起こす」など、誰かに訴えることは正当な手段です。いじめなど理不尽なことをされた時に、一人で耐えるのではなく、大人に助けを求めることは、正当なたたかい方だと！



○ イライラする子どもたち

話しかけても返事をしない、何か聞いてもうるさがるなど、とても不機嫌なことがあります。今の子どもたちは、以前に比べて格段に忙しい生活を送るあまり、くたびれて、抑うつ、イライラなどが見られることがあります。

思春期の子どもの心の中には、「依存」と「自立」という相反する思いが共存しています。



朝、子どもがなかなか起きない。「自分で起きるからもう起こさなくていい！」とは言いが、寝過ごして遅刻しそうになると、「どうして起こしてくれなかったの！」と逆ギレすることも。



○ 子どもの反抗期にどう付き合うか

大人はややもすると、子どもに「頑張ってほしい」、「ずっと頑張りを続けてほしい」と思ってしまいます。中学生にもなると、学校では各教科の担任や部活の顧問、外では塾や習い事の担当など、たくさんの大人たちが、それぞれに子どもの「頑張り」を望み、子どもは大人たちの期待を一身に引き受けてしまいます。

子どもの生活をトータルで見ているのは親だけです。

子どもたちが頑張りすぎて疲れていないかを観察しましょう。頑張りをしっかり認めてあげているか振り返ってみましょう。



時には本人のやりたいようにやらせて、見守りましょう。

自分ひとりで、すべてうまくできるわけではありません。もし、失敗したならフォローする度量（覚悟）が必要です。

自分の思春期時代を思い出してみましょう。

昔、親や大人はどんな対応をしたでしょうか。その時を振り返り、自分はどうか対応してもらいたかったのか考えてみましょう。

○ 親として何ができるか

「そっとしておいてほしい」ことは、「最も繊細にふれてほしい」こと

「ほっといてほしい」でも「ほんとは気にしてほしい」

「気づかれたくない」でも「ほんとは気づいてほしい」

「気づいているよ。あなたのことがとても大切だよ。」と伝えてください。親だからこそできることです。

家庭は本来、外(社会)で疲労し、傷ついた心とからだを癒し再生する場です。くつろげる場、弱みを見せられる場、ゆるめられる場です。

「ものわりのいい親」のつもりで、子どもと向きあうことから逃げていませんか？

★ 親として言うべきことは言いましょう！

ただし、「親の言うことが絶対だ！」ではなく、親の意見を聞かずに、親を乗り越えていくこともあることをいつも頭の片隅におきながら。



受講生の方からいただいた貴重なご意見の一部を紹介します

- ✧ 今後、必ず訪れる思春期について学ぶことができました。子どもに対する接し方も今後気をつけていき、何かある時にSOSを出してくれ、それを受けとめられる親子関係を築けたらと思いました。
- ✧ 問題に向き合うことの大変さと大切さを考える機会となりました。
- ✧ 不登校の子どもとの関わりに悩んでいたのも、思春期の心身の変化や子ども社会のことを知ることができました。今後の関わりに生かしていきたいと思います。
- ✧ これまでの自分、家庭の関わり方を改めて見つめ直すと同時に、過去を悔やむだけでなく、これから大切にしていきたい。
- ✧ はじめて参加しました。子どもが大きくなり、改めて思春期のことを思い顧みてうなずくことばかりでした。大石先生のお話が事例をふまえて聞け、とてもわかりやすくよかったです。娘が中学の時、キャプテンいじめを受けて、親子で乗り越えられたこともあり、本日の話をもっと早く聴く機会があったらよかったと思いました。その時、赤ちゃん返りしたことも、本日理解できました。
- ✧ 「甘えなおし」「友だち親子」「きちんと向き合う」これからの子どもとの生活を見直す大きなヒント・アドバイス・きっかけをいただきました。ありがとうございました。
- ✧ 自分の日々の生活にそった、とても参考になるいいお話を聞かせていただきました。また機会があれば先生のお話が聞きたいです。ありがとうございました。
- ✧ 貴重なお話ありがとうございました。私は子どもがいない立場で参加させていただき、子育て中だときっと”心構え”としては聞けなかったかもしれないので、子育て前に聞いたことは本当によかったと思います。子も親も必死で生きているように感じる中、こういった講演は意味あるものだと思います。環境をつくるのも親、子を守るのも親…。親の存在に感謝と尊敬を感じました。
- ✧ もう少し早く聴いていれば、子どもへの対応も違っていただのかと思う。子どもを悪いほうへ進ませてしまった。これからは、きちんと向き合っていこうと思った。時間があればもっとゆっくり聴きたいと思った。
- ✧ 一般的なお話は何度も聞いていたので、復習のように聞けました。また、4人目の子で中3ですので、もう少ししたら反抗期が過ぎるのではと思っていますが、なかなか「不機嫌」さがとれません。乳幼児期、児童期は反省しても戻りませんので、今後、時が過ぎるのを静かに見守った方がよいのか、何かアクションを起こした方がよいのか。結局、具体的に自分のことを聞きたかったのだと思いました。私にとってはカウンセリングのほうがよかったのかもしれないと思いました。先生のお話は、分かりやすくとてもよかったと思います。
- ✧ 先生の穏やかな話し方と実体験に基づく豊富なお話が大変ためになりました。ありがとうございました。
- ✧ 子どもとのコミュニケーションのとり方に関し、参考になりました。今後、相応に対応していきたいと考えます。

ご協力ありがとうございました

